

# インフルエンザワクチン接種について

## 予防接種を受けることができない人

明らかに発熱している人

重大な急性疾患にかかっている人

過去にインフルエンザワクチンでショックを起こした人

その他医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

## 予防接種を受けるにあたって医師への相談が必要な人

心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、肺の病気のある人

発育が遅く、医師や保健師の指導を受けている人

風邪のひきはじめと思われる人

予防接種で発熱、発しんなどを生じたことのある人

薬や食事（特に鶏卵や鶏肉）で発しんが出たり体調不良になったことのある人

けいれんを起こしたことのある人

本人や近親者が免疫の異常を指摘されたことのある人

妊娠の可能性のある人

## ワクチンの効果と副反応

インフルエンザワクチンの目的は、インフルエンザ感染をある程度予防すること、かかったときの症状を軽くすること、かかったときの合併症（脳炎、肺炎など）や死亡を減らすことなどです。

副反応（いわゆる副作用）は、注射部位の発赤、腫れ、熱感、痛み、および全身的な発熱、頭痛、だるさ、めまい、ねむけ、嘔吐、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、リンパ節腫脹などがありますが、普通は数日で改善します。

まれですが、以下のような重大な副反応が起こることがあります。

ショック症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症・脊髄炎・視神経炎、ギランバレー症候群（広範囲の神経麻痺）、けいれん、肝機能障害、喘息発作、血小板減少、血管炎、間質性肺炎、皮膚粘膜眼症候群（スティーブンスジョンソン症候群）、ネフローゼ、その他

万が一健康被害を生じた場合、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行います。